

特66-21

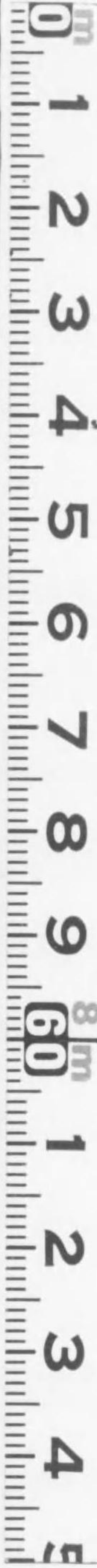


\*1200800272976\*

用 卒

改正野外要務

特



始



緒言

兵卒野外要務第十版售了シ盡シテ更ニ版ヲ累ネント  
 應ルニ方リ宛モ野外要務令ノ改正アリ爲メニ訂正ノ  
 要アルヲ感シ其レカ増補ノ事ヲ余ニ囑セラル余ヤ別  
 ニ下士改正野外要務ノ校訂ヲ諾シ將ニ損益ニ從事シ  
 ツトアルニ當リ併セテ此ノ囑ヲ承クルヲ致セシヲ以  
 テ筆硯ノ便宜索引ノ次序共ニ之レヲ革ムルコトヲ要  
 セズ則チ讀過一遍其稿ヲ脱シ茲ニ改正ノ二字ヲ冠シ  
 テ第十一版ヲ發行スルニ至レリ若シ夫レ本書ヲ將テ  
 諸士カ勤務上ニ裨補スル處アルヲ得ハ余ノ勞モ亦タ



空シカラスト云フヘシ

明治三十三年二月

村上神洲識

兵卒應用改正野外要務目次

行軍

通則

尖兵

兵數

行進法

搜索ニ就テノ注意

窪キ道又ハ高低アル地

狹隘

一丁

三丁

五丁

七丁

九丁

十四丁

村落、森林

十五丁

敵兵ヲ見出スヲニ就テノ注意

十六丁

斥候

兵數

十八丁

任務

十八丁

必要ナル性能

十九丁

用意

二十丁

命令

二十一丁

出發前ノ注意

二十二丁

行進

二十三丁

搜索ニ就テノ注意

二十六丁

高低アル地

二十七丁

狹隘

二十九丁

村落、森林

三十丁

敵兵ヲ見出シタル所ノ處置

三十五丁

連絡兵

三十六丁

側衛、側兵

三十七丁

後衛

進軍ノ時

三十八丁

退軍ノ時

四十丁

列中ニ在ル兵卒ノ注意

四十一丁

衛生

行軍出發前

四十五丁

行軍中

四十七丁

着營後

四十八丁

夜行軍

五十丁

駐軍

通則

五十一丁

小哨

兵數距離

五十四丁

任務

五十六丁

警戒

五十七丁

步哨

配置

五十九丁

守則

六十丁

敵兵來ル時ノ處置

七十丁

交代

七十一丁

下士哨

兵數

七十二丁

任務

七十三丁

配置

七十四丁

敵兵發見セシ時ノ注意

七十四丁

獨立下士哨

兵數

七十五丁

任務

七十六丁

敵兵發見セシ時ノ注意

七十八丁

斥候

一般ノ通則

七十九丁

教示

八十丁

種類及任務

八十丁

兵數距離

八十三丁

出發前ノ注意

八十四丁

往復ノ道路及時刻

八十四丁

歩哨線ノ通過ニ關スル注意

八十五丁

行進中ノ注意

八十六丁

敵兵ヲ發見セシ時ノ注意

八十九丁

報告

九十一丁

巡察

九十二丁

宿營

通則

九十三丁

舍營

設備

九十五丁

入舍前及入舍後ノ注意

九十六丁

衛兵

九十八丁

風紀

九十九丁

警戒

百丁

警報

百二丁

村落露營及露營

設備

百三丁

衛兵

百五丁

風紀警戒

百五丁

警報

百六丁

方位ヲ知ルノ法

百七丁

徵候

百十丁

兵卒  
應  
用  
改  
正  
野  
外  
要  
務  
目  
次  
終

兵卒應用 改正野外要務

行軍

通則

第一

行軍トハ軍隊ガ一ノ地ヨリ一ノ地ニ行進スルヲ云フナリ

行軍ニ二種アリ一ヲ戦闘行軍ト云ヒ一ヲ旅次行軍ト云フ  
戦闘行軍トハ敵前ニ於テ行フモノニシテ旅次行軍トハ  
全ク敵ニ遭遇スルノ恐れナキニ於テ行フモノヲ云フ



第一

行軍スル時ハ必ス其軍隊ノ一部ヲ取テ先ニ行カシム之ヲ前衛ト云ヒ後方ニ殘リテ兵數最モ多キ者ヲ本隊ト云フ

前衛ハ道路橋梁等ニ壞ハレタル所アレハ之ヲ直シ又僅カナル敵ハ之ヲ追拂ヒテ本隊ノ行進ヲ止メサセヌ様ニシ又若シ數多ナル敵ニ遭フ時ハ之ヲ禦ギテ本隊ニ戰鬪ノ用意ヲスルノ間合アル様ニスルヲ任務トス

第二

前衛ハ本隊ヨリ先キニ行ク少クモ百五十米突以上ノ處ニアリテ若シ敵ニ遭フタル時モ前衛ニ受クル彈丸ノ本隊ニ届カヌ様ニスヘシ

第四

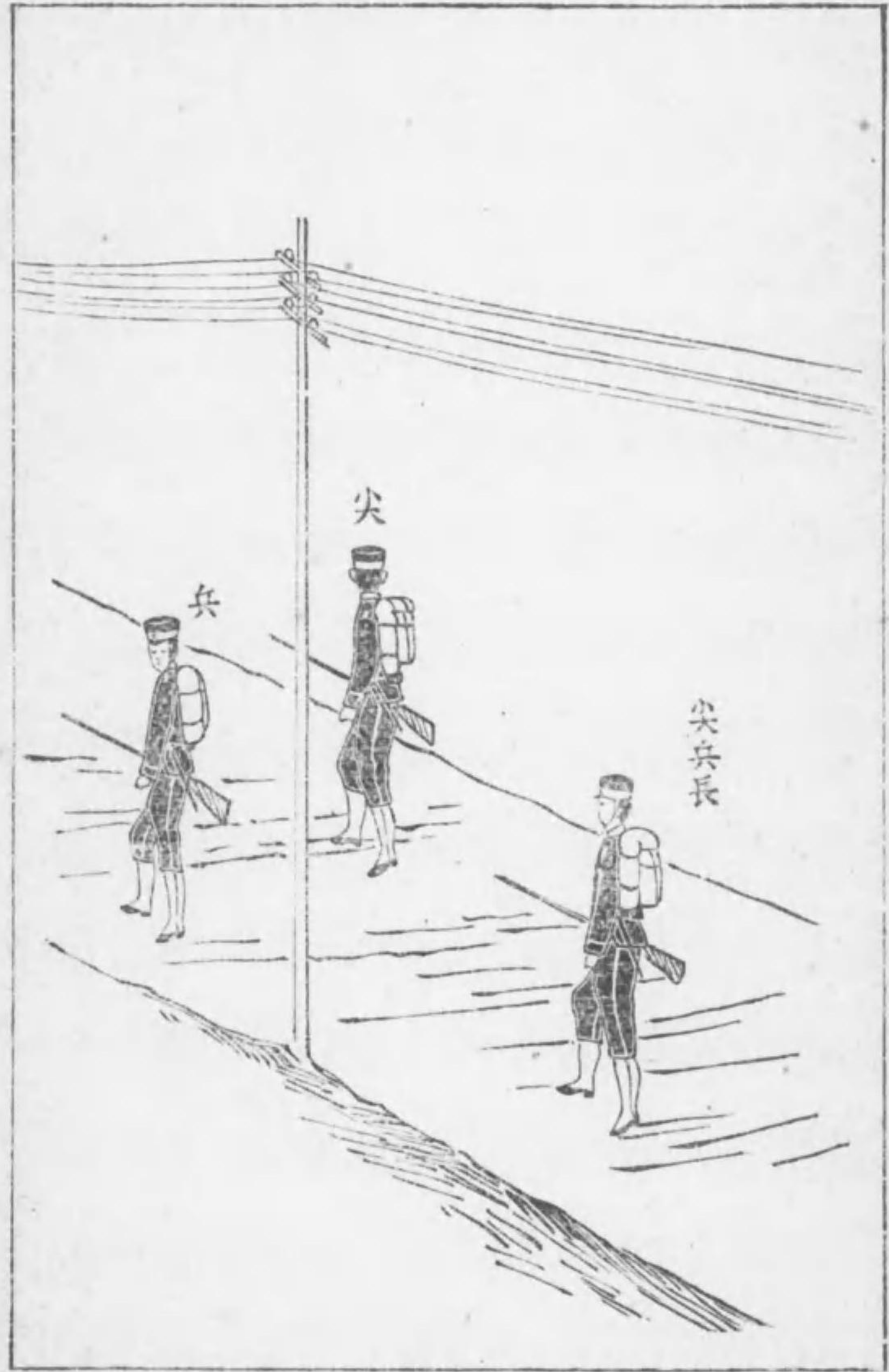
前衛ハ通常三ツニ分ケテ其最モ先キニ行ク者ヲ尖兵ト云ヒ次ヲ前兵ト云ヒ最モ後ニアル者ヲ前衛本隊ト云フ故ニ前衛トハ此三ツノ者ヲ合セテ云フタル者ナリ人數少キ隊ニテハ前衛ハ尖兵ト前衛本隊ノ二ツニ分チ又ハ唯タ尖兵ノ一ツノミヲ出スコアリ

尖兵

兵數

第五

尖兵ノ兵數ハ通常一分隊以上ニシテ其長ハ士官ナリ然レモ小ナル前衛ノ尖兵長ハ下士ナリ尖兵ハ前方ニ騎兵ナキ時ハ更ニ三名ノ尖兵ヲ出シテ凡



ソ百五十米突以上先キニ行カシメ其内二名ハ兵卒一名  
 ハ下士或ハ上等兵ナリ

行進法

第六 尖兵ノ行進スルニハ二名ノ兵卒先ツ進ンテ道路  
 ノ両側ヲ行キ長ハ其後方三四十米突ノ處ヲ行進ス即チ  
 前圖ノ如シ

第七 行進中ハ常ニ前方ニ注意スルガ重モナレトモ側  
 ヲ行進スル側兵ノ尖兵又ハ側斥候ニモ注意シ若シ村落  
 又ハ森林内ニテ常ニ見合フノ出来ヌ時ハ左圖ノ如ク  
 横ニ通スル道路アル毎ニ互ニ待合セテ連絡ヲ取り然ル



後ニ行進スヘシ

通常側方ヲ行ク者ハ行進遅キヲ以テ本道ヲ行ク尖兵先  
ツ止リテ待合スヘシ

搜索ニ就テノ注意

第八

尖兵ノ如キ人数ノ寡キ者ハ敵ニ逢フタルキ人数  
多キ隊ニ比ブレハ危キ者ナレモ人数寡キヲ以テ敵ノ目  
ニ當ラヌ様ニ行進スルヲ得ヘシ

第九

尖兵ノ行進スルニハ強テ危キヲ爲スヨリハ寧  
ロ伶俐ニシテ且ツ能ク氣ヲ注ケル方ガマシナリ然レモ  
餘リ氣ヲ注ケ過ギテ本隊ノ行進ヲ遅クナラシム可ラス

若シ何時迄ニ何處迄行ケトノ命令ナル時ハ尙更ニ行進ノ遅クナラヌ様ニ氣ヲ注クベシ

第十

尖兵カ敵ノ居ルヤ否ヤヲ搜グルニ極メテ綿密ナルト否トハ敵ノ近キニアルト遠キニアルトニ依リテ差フ者ナリ即チ敵兵ノ遠キ場合ニ在テハ行進スル路及之ニ平行スル路ヲ搜グレハ充分ナリト雖モ敵兵ノ近キ場合ニ在テハ綿密ニ搜グルヘシ

第十一

尖兵ガ搜索ヲ爲スニハ敵ノ騎兵ナルト歩兵ナルトニ從テ氣ノ注ケ方同ジカラズ乃チ騎兵ハ通常高低アル地孤立ナル少サキ林又ハ家ノ背後等ニ蔭レ歩兵ハ

窪キ道墓地草叢等ニ隠レル者ナリ

窪キ道又ハ高低アル地

第十一

窪キ道ニテハ左右ガ見ヘヌ片ハ尖兵二名ハ左ノ第一圖ノ如ク谷底ノ道ニテ兩岸ノ頂上遠キ時ハ第二圖ノ如ク別ニ兵ヲ出スカ又ハ側兵ノ行進スヘキモノナリ

窪キ道又ハ高低アル地



十

窪キ道又ハ高低アル地



十一

第十三 我ガ行進路ヲ横ギル高キ地ニテハ其頂上ノ少  
 シク後方ニ止マリテ能ク敵ノ居ルヤ否ヤニ氣ヲ注ケ尙  
 側斥候又ハ側兵ノ尖兵ガ自分ト並ブ所迄來タルヲ待チ  
 テ其上ニテ前進スヘシ即チ左圖ノゴトシ  
 若シ高地ノ頂上廣キ時ハ始メノ頂上ニモ後ノ頂上ニモ  
 止リテ能ク敵ノ方ニ氣ヲ注ケ然ル後ニ行進スヘシ



側斥候又ハ側兵

側斥候又ハ側兵

狹隘

第十四

其側方ヲ通ルコトノ出來ル狹隘ナレハ窪キ道又ハ谷底ノ道ヲ行ク時ノ如ク行進スヘシト雖モ若シ橋梁等ノ如キ側方ガ通ルコトノ出來ヌ狹隘ナレハ勇氣ヲ奮ツテ速ニ通リ能ク前方ノ土地ヲ搜リ狹隘ヨリ何程カ隔リタル所迄進ンテ止リ然ル後ニ後ニアル隊ヲ進マシムヘシ

敵國或ハ敵ノ通リタル地ノ橋梁ニテハ先ツ壞ハス用意ガシテナキヤニ氣ヲ注ケ殊ニ橋下及橋ノ柱ヲ檢査スヘシ

シ

村落、森林

第十五

村落ニ至レハ先ツ最モ近キ家屋ニ至リテ人民ニ就キ敵ノ景況ヲ尋ネ尙ホ成ルベク其他ノ人ニモ問フテ村ノ端迄同道シテ其言フタルコトノ信カ偽カヲ比ベ合シテ見ルヘシ  
人民ニ問フコトガ出來ヌ時ハ充分用心ヲ爲シテ進ミ第一ニ寺院、學校、村廳、停車場等ヲ能ク搜リ然ル後速ニ村ノ端ニ出ヅヘシ

第十六

夜中ニ村落ニ着キタル時ハ潜カニ最モ近キ家屋ニ至リテ景況ヲ窺ヒ然ル後一名ハ家屋ノ内ニ入りテ人民ニ問ヒ又ハ人民ヲ同道ス

第十七

森林ノ近傍ニ至リタレバ其入口及ビ側方ノ道路等ニ敵アルヤ否ヤニ氣ヲ注ケテ内部ニ進ミ入り速ニ出口ニ至ルヘシ

第十八

村落又森林ニテモ其廣サ大ナル時ハ後ニアル隊ヨリ更ニ要スル丈ケノ斥候ヲ左右ニ出シテ尖兵ハ此斥候ト共ニ恰モ散兵ノ如クニ並ビ進ムヘシ

敵兵ヲ見出スニ就テノ注意

第十九

尖兵ハ勉メテ早ク敵ヲ見出シ且勉メテ敵ノ眼ニ當ラヌ様ニシテ各種ノ徵候ニ注意スヘシ若シ敵兵ヲ見出セバ其兵ノ種類、兵ノ數、行進スル方向等ヲ確カニ見ルヘシ

敵ヲ見出セバ定メラレタル記號ヲ以テ後ノ隊ニ知ラスヘシサレモ遮カニ敵ニ出遭フタル時ハ劇シク射撃シテ之ヲ知ラスヘシ  
敵兵多キ時ハ止マリテ後ニアル兵ノ來ルヲ待チ敵ノ兵寡ケレハ之ヲ逐ヒ退クヘシ若シ敵ヲ追ヒ退クモ無闇ニ之ヲ追駈ケテ後ノ隊ヨリ離ル、コナク唯ダ續テ行進ス

敵兵ヲ見出スニ就テノ注意



レハ可ナリ

斥候

兵數

第二十

斥候ノ兵數ハ時ノ景況ニ從テ同シカラス然レ  
凡通常ハ兵卒二名ト其長一名ト合テ三名ニシテ夫レヨ  
リ以下ニ下ルコナシ其長ハ將校若クハ下士或ハ上等兵  
ナリ然レ凡時トシテハ故參兵卒ガ長トナルコアリ

任務

第二十一

前面ノ斥候ハ尖兵或ハ前兵ヨリ出ダサル、  
者ニシテ尖兵ノミニテハ搜グルコノ出來ヌ所ヲ搜グル

ニ任ス

第二十二

側面ノ斥候ハ尖兵或ハ前兵前衛本隊等ヨリ  
出サル、者ナリ此斥候ハ側方ニ行進スルノ間ニ本隊ハ  
絶エズ前方ニ進ムヲ以テ速ニ搜リ速ニ行進セ子バ元ト  
ノ位置ニ歸ルコト難シ因テ前面ノ斥候ニ比ブレハ其任務  
甚ダ難シ

又側斥候ハ常ニ其出タル隊ト連絡ヲ取ルベシト雖凡時  
トシテハ稍ヤ隔リタル村落等ヲ搜グル爲メニ少シノ間  
ハ全ク本隊ト離ルコトアリ

必要ナル性能

第二十三 斥候ニ必要ナル性能ハ慧敏熱心沈着剛膽ノ

四ツニシテ斥候トナルヘキ者ハ何事ヲ見テモ直ニ其何

タルヲ知り危キ場合モ直ニ能ク逃レ疑ハシキ所ニモ怖

ル、トナク進ミ身体モ又強健ナルヲ要ス

第二十四 斥候ニ撰バレタル者ハ其身ノ名譽ナリ故ニ

其名譽ヲ汚サヌトニ注意スヘシ

用意

第二十五 斥候ハ豫メ番號ヲ附ケテ定メ置カル、者ナ

レハ命令アルニ從テ直ニ出發シ得ルノ用意ヲ爲スヘシ

第二十六 彈藥ハ不足ナク銃器等ニモ損所ナキヤニ能

ク注意スヘシ

第二十七 兩便ハ常ニ濟マシ喫食モ速ニ終リ携フヘキ

糧食モ忘ル可ラス

命令

第二十八 斥候ノ受クル命令ハ概ネ左ノ如シ

一 敵ノ景況

一 搜索スヘキ地區

一 殊ニ注意スヘキ地點

一 本隊ニ合スヘキ地點

一 記號

第二十九 受ケタル命令ノ意味ハ能ク合點シテ間違ナ  
 キ様ニスヘシ故ニ合點セサル所アレハ用捨ナク之ヲ問  
 フヲ好シトス

出發前ノ注意

第三十 斥候ハ森林又ハ村落内等ニテハ互ニ見失フ  
 アルヲ以テ前以テ集ルヘキ所ヲ定メ置クヘシ

第三十一 集マルヘキ處ハ成ル丈ケ知レ易キ者ヲ好シ  
 トス即チ一本松五重塔鐘撞堂等ノ如シ  
 集マルヘキ處ハ直ニ見ルカ出來ルナレハ出發前ニ示  
 サル、者ナリ然レモ悉ク一時ニ示サル、モノニ非サレ

ハ出發後一ノ地點ニ集マリタル時更ニ示サル、コトア  
 リ

行進

第三十二 斥候出發スヘキノ命アレハ直ニ駈歩ヲ以テ  
 進ミ前面ノ斥候ナレハ速ニ尖兵ト同線上ニ出テ或ハ之  
 ヲ超ヘテ進ミ側斥候ナレハ本隊ノ通り過ギザル前ニ指  
 シ示サレタル地點ニ至リテ止マルカ又ハ本隊ト并ビテ  
 進ムモノナリ

第三十三 斥候ノ行進スル順次ハ二名ノ兵卒ハ左右ニ  
 開キテ并ラヒ進ミ其長ハ二名ノ兵ノ中央後四五十米突



ノ所ニアリテ行進ス即チ右圖ノ如シ

時トシテハ又三名前後ニ在テ行進スルコトアリ

第三十四 斥候ハ成ルヘク本道ニ平行スル道路ヲ行ク

ヘシト雖トモ之レナキ時ハ道ナキ處ヲ行進セサル可ラ

ス道ナキ所ヲ行進スル時ハ行進頗ル遅シ然ルニ尙ホ搜

索モセテハナラヌユヘ行進ハ愈々遅シ因リテ成ル丈ケ

總テノ動作ヲ速ニスヘシ

第三十五 行進中定メラレタル點ニ集ルコトガ出來ヌ時

ハ次ノ地點ニ集ルヘシ若シ次ノ地點甚ダ遠キ時ハ必要

ナリト考フル地點ニ至リテ待テハ大抵他ノ兵ニ出逢フ

ヲヲ得ル者ナリ

第三十六 前面ノ斥候ハ本隊ヲ隔ツルヲ稍々遠キモ少シノ時タテバ後ニハ必ス本隊來ルヘシ側斥候ハ全ク本隊ノ助ヲ受ク可ラサルヲ以テ遠クモ射撃ノ聲ノ聞ユル所ヨリ以外ニ出ヅ可ラズ

搜索ニ就テノ注意

第三十七 斥候ハ常ニ危険ヲ犯シテ搜索セテハナラヌ故ニ其危険ヲ少クセンカ爲メニハ些少ナルヲニモ注意スヘシ

第三十八 總テ搜索ヲ爲スニハ意外ノ處ヨリ進ミ入ル

ヲ良トス例令ヘハ家屋ニテハ裏口ヨリ近ヅキ森林ニテハ側方ノ小徑ヨリ入り山地ニテハ最モ險阻ニシテ通行稀ナル小徑ヨリ進ムカ如シ  
總テ意外ノ所ヨリ進ム時ハ敵ノ眼ニ觸ル、ヲ少ナク若シ敵ニ出遭フアルモ我狼狽セサレハ敵ハ恐レテ退ク者ナリ

第三十九 斥候ノ一名疑ハシキヲ見レハ記號ヲ以テ之ヲ他ノ兵ニ知ラセ疑ハシキヲ判リタル後又記號ヲ以テ之ヲ知ラセ然ル後前進スヘシ

高低アル地

第四十 容易ク且速ニ敵方ノ土地ヲ視通シ得ル所ノ高地ヲ搜索スルヲ肝要トス即チ此地ヨリ通スル道路并ニ高地ノ下ニ存スル畑地溪谷低キ道村落農家等ヲ視通シ得ル高地ヲ搜索スヘシ

第四十一 側斥候ノ爲メニハ河邊ノ低キ地モ亦原野ニ同シ此地ハ全ク高キ點ナク穀類ノ莖葉樹等ノ爲メニ視通シヲ遮キラレ我縦隊ハ僅カニ自己ノ周圍二百歩ノ地ヲ視通シ得ルニ過キス又道路ノ傍ニ水ノ滿チタル濠アルニ遇ヒ且一部隊ノ敵ノ暫時我カ縦隊ヲ射撃シ得ル所ノ一隅ニアル時我隊其傍ヲ通過スヘキニ當リテハ斥候

等ハ意ヲ決シテ危險ヲ侵シ其地部ノ端ヲ通行シテ搜索スルヲ肝要トス

狹隘

第四十二 側方ヲ通ルコトノ出來ル狹隘ニシテ仮令ハ谷ノ底山ノ間等ノ如キ所ニテハ斥候ハ側方ノ山ノ上ヲ本道ニ平行シテ進ミ絶エス本道ノ尖兵ト連絡ヲ取り又時々山ノ外側ヲモ搜索スヘシ  
左右ノ山ニ出ツル斥候ハ常ニ各別ニ出サル、者ナリ  
第四十三 側方ヲ通ラレヌ狹隘仮令ハ橋梁堤塘水田間ノ道路等ニテハ左ノ圖ノ如ク斥候ハ狹隘ニ入ラサル前



ニ止リテ敵ノ方ニ注意シ此間更ニ出サレタル斥候ノ狭  
 隘ノ前ニ進ミ出ルヲ待テ然ル後其本隊ニ歸ル者ナリ  
 更ニ命セラレタル斥候ハ極メテ速ニ狭隘ヲ通過シ之ヲ  
 通過シ終レハ直ニ左右ニ分レテ進ムヘシ

村落、森林

第四十四

村落ニテハ斥候ノ一名ハ時々人家ニ近ヅキ  
 又家屋外ニアル人民ニモ近ツキテ問フヘシ假令ハ敵ハ  
 何處ニ露營セシヤ又舍營セシヤ或ハ何方向ニ行進セシ  
 ヤ敵ノ斥候ヲ見サリシヤ其斥候ハ何レノ方ニ退キシヤ  
 等ノ如シ

然レ凡人民ハ我カ來ルヲ敵ニ知ラスルコトアルヲ以テ之ニ注意スヘシ故ニ敵ノ方ニ行カントスル者ハ總テ之ヲ止メ置クヘシ

第四十五 籬牆、柵、堤塘及ヒ塀ヲ以テ村落ヲ繞ラス地方ニ於テハ搜索頗ル困難ナルモ勉強ナル斥候ハ其内ニ入込ミテ勞ヲ厭ハス搜索ヲ爲ス者ナリ

第四十六 我カ本隊大ナル森林内ノ路ヲ行進セントスル時樹木茂リ又稚キ樹アリテ側方ヲ行クコト困難ナル所ニアリテハ大ニ注意スルヲ要ス此場合ニ在テ側斥候ハ敵ノ方向ニ向テ林ノ外側ヲ廻リテ敵兵林内ニ進入セサ

ルヤ否ヤニ注意シ且少クモ一名ノ兵或ハ別ニ一組ノ斥候ハ林ノ中ヲ通行スヘシ  
然レ凡森林甚シク廣ケレハ側斥候ハ側衛ト共ニ側方ノ路ヨリ進ンテ時々止マリ又高キ點ニ至リテ敵ノ方ヲ望ムヘシ

敵兵ヲ見出シタルルキノ處置

第四十七 斥候ハ敵ノ斥候ニ遇フ時ハ速ニ匿レ若シ之ヲ爲シ得レハ彼レノ近ツクヲ窺ヒ不意ニ出テ、之ヲ捕フヘシト雖モ否ラサル時ハ彼レニ見ラレヌ様ニシテ其兵種兵數、方向ヲ認ムヘシ



第四十八

斥候若シ大勢ノ敵ヲ見出セハ直ニ匿レテ敵ノ兵數兵種行進ノ方向ヲ見然ル後一名ハ速ニ往テ本隊ニ報告シ他ノ者ハ絶エス敵如何ナルヲ爲スヤニ注意シ時機ニ因テハ外方ノ側面ヨリ俄然射撃ヲ爲シテ然ル後速ニ退ゾクヘシ又敵ノ復哨ノ如キ者ヲ發見シタル片ハ其附近ハ敵ノ步哨線ニアラサルカラ慥ムル爲メ後方ニ廻リテ搜索スヘシ

第四十九

斥候若シ大勢ナル敵兵ニ見出サル、カ又ハ到底見出サル、ト思フ時ハ俄然數發ノ射撃ヲ爲シ然ル後速ニ退ゾクヘシ

第五十

此射撃ハ敵ノ行進ヲ遅カラシメントスルノミナラス敵ノ近クヲ或カ本隊ニ知ラシメンカ爲メナリ又不意ニ敵ノ射撃ヲ受ケタル片ハ近傍ノ地物ニ匿レテ射撃セシ方向ヲ慥ムヘシ  
報告ヲ爲スニハ本道ニ最モ近キ道路ヨリスヘシ斥候ノアル地ヨリ本道ニ直角ナルカ或ハ少シク前方ニ斜メナル道路ヲ取レハ必ス我隊ニ出遇フヘシ報告ニ行クモノ途中ニ於テ尖兵或ハ他ノ斥候ニ出遭フ時ハ是ニモ敵ノ狀況ヲ知ラスヘシ然レ之レカ爲メニ本隊ニ報告スルヲ遅カラシム可ラス

連絡兵

第五十一 連絡兵ハ通常二名ノ兵卒ニテ成リ尖兵ヨリ出スモノトス

其位置ハ尖兵ノ後方五十米突ニシテ前衛尖兵或ハ前衛本隊或ハ直ニ本隊ト連絡ヲ取ルニ任ス

第五十二 連絡兵ハ常ニ必スシモ集リ居ル者ニ非ス故ニ道路ニ數多ノ曲リアル時ハ前後ニ在テ連絡ヲ取ルヘシ若シ道路數條ニ分ル、時ハ一名ハ後ノ隊ノ來ルマデ其地ニ止リ然ル後ニ前進スヘシ

側衛側兵

第五十三 側衛或ハ側兵ハ本隊ノ側面ヲ衛ル爲メニ出サレタル一ノ部隊ニシテ其人數ノ多少ニ從テ側衛或ハ側兵ト云フ

第五十四 側衛或ハ側兵モ本隊ト同シク前ニ尖兵ヲ出ス此ノ尖兵モ本隊ノ尖兵ト同シク其出タル側衛或ハ側兵ノ爲メニ前キニ進ンテ敵アルヤナキヤヲ搜クルニ任スル者ナリ故ニ本隊トハ少シモ關係ナシト雖モ本隊ノ尖兵トハ常ニ連絡ヲ取ルヘシ

第五十五 側衛或ハ側兵モ其側方ヲ衛ル爲メニ側兵候ヲ出シ又本隊ト連絡ヲ取ル爲メニモ斥候ヲ出シ其他尖

兵ノ後方ニ連絡兵ヲ出スハ本隊ノ尖兵ト同シ

後衛

進軍ノ時

第五十六 前進スル軍隊ノ列ヨリ離ル、兵等ノ取締ノ爲メ其他敵我背後ニ廻ルノ恐アルトキ之ニ備フル爲メニ後方ニ後衛ヲ出ス

第五十七 前進行ノ後衛ハ通常戦闘スルナキヲ以テ其兵員ハ一大隊ニテハ一小隊一中隊ニテハ一分隊ナリ而テ後衛モ又前衛ノ如ク其兵員ニ從テ後衛本隊後衛後兵後兵尖兵ニ分ツ本隊一小隊ナレハ後衛ノ爲メニ僅カ



二三名ノ尖兵ヲ出スノミ

第五十八

後衛ノ尖兵モ三名ニテ成リ内一名ハ長ニシテ他ノ二名ハ其長ノ後方二三十米突ノ處ニテ道ノ兩側ニ在テ行進ス

後衛モ亦側面ヲ衛ル爲メニ側斥候ヲ出ス此斥候ハ常ニ

尖兵ト連絡ヲ取ルヘシ

退軍ノ時

第五十九

退軍ノ時ノ後衛ハ敵ヲ防イテ本隊ヲ無事ニ退カシムルヲ任トス其故ニ其兵員ハ前進ノ時ノ前衛ニ同シク時トシテハ之ヨリ尙ホ多キヲアリ

第六十

後衛ハ後衛本隊後衛後兵及ヒ後兵尖兵ニ分チ其尖兵ハ常ニ背後ト側面トニ注意シ敵近クハ堅固ナル陣地ニ據リテ之ヲ防キ之ニ因テ敵兵猶豫セハ此間ニ乘シテ速ニ退クヘシ

第六十一

總テ後衛ハ少シモ加勢スル者ナキヲ以テ其兵タル者ハ前衛ニアル時ヨリ一層勇氣アリテ時トシテハ本隊ヲ助ケンカ爲メニ一人モ残りナク撃死スヘキヲアリ其故ニ後衛ト爲ル者ハ其身ノ名譽ト云フヘシ

列中ニ在ル兵卒ノ注意

第六十二

軍紀ノ立ツト立タサルトハ行軍スル景況ヲ

見テ知ルヘシ實ニ疲レタル時ハ隊伍紊レ易キ者ナレ  
之ヲ紊サヌコソ軍紀能ク立テリト云フヘシ

第六十三

隊列紊ルレハ大ニ隊ノ長サヲ増シ又命令等  
モ充分ニ聞エサルコトアリ然ルル不意ニ敵ニ襲ハルコト  
アル時ハ直ニ之ニ應スルコト能ハサルノ害アリ

第六十四

行軍中路ノ片側ヲ行クヘキノ命アルトキハ  
他ノ片側ハ正シク之ヲ明ケ置クヘシ若シ他ノ軍隊ニ行  
キ遭フトキハ右ニ外ケテ左ヲ通スヘシ  
若シ隊ノ後方ニ喇叭手ヲ備ヘ置カレ右或ハ左ノ號音ヲ  
吹クトキハ直ニ右或ハ左ニ寄ルヘシ

第六十五

村落ヲ行進スルトキ喇叭ヲ吹カシメラルレハ  
命令ナクトモ直ニ姿勢ヲ直シ隊列ヲ整ヘ殊ニ市街ニ在  
テハ正シク歩ノ調子ヲ合スヘシ

第六十六

已ムヲ得サルコトアルモ免シナク隊列ヲ離ル  
可ラス若シ免ヲ受ケテ隊列ヲ離ルル、片ハ銃ヲ隣兵ニ托  
シ其事終レハ速ニ舊ノ位置ニ歸ルベシ

第六十七

野外ニ在テハ耕作物ヲ害セサルニ注意シ住  
民地ニ在テハ乾物ヲ踏マサルニ注意シ其他人民ニ惡マ

ル、働作ナキ様ニ注意スヘシ

第六十八

恣マ、ニ服装ヲ紊スヘカラス 假令ハ暑サノ  
トキ 手拭ヲ帽ノ上ニ掛ケ又ハ肌ヲ露ハスカ如キハ最モ  
見苦シキナリ故ニ襟ヲ開クガ如キハ許サレタルトキノ  
ミ之ヲ爲スヘシ

又途歩ノ時ト雖 大声ナル談話ヲ爲サヌヲ及縦隊ノ廣

カラヌ様注意スヘシ

第六十九

休止ノ時ニ濫リニ人家ニ入りテ妨ケヲ爲ス  
可ラス 又決シテ飲食店ニ立寄ル可ラス  
飲物ヲ飲ムトキハ必ス示サレタル順序ヲ以テスヘシ

衛生

行軍出發前

第七十

眠リ足ラヌ時ハ身体ノ疲レヲ十分ニ休ム可ラ  
サルヲ以テ定時刻ヨリ早く起ル勿レ

第七十一

朝飯ハ成ル丈ケ早く済マシテ出發迄ニ消化  
ノ時間アル様ニスヘシ又兩便モ出發前ニ済マスヘシ

第七十二

暑サ甚シキ時ニ焼酎類ヲ飲ムハ恐ルヘキ病  
ヲ起スヲ以テ決シテ飲ム可ラス

第七十三

足ハ清潔ニ洗ヒ爪ハ短ク截ルヘシ

第七十四

靴足袋ハ清潔ニシテ破レヌ者二足ヨリ三足

ヲ用意スヘシ

第七十五 靴ハ良ク足ニ合ヒ又少シク大キナルヲ良ト

ス是レ足ノ甲ハ少ク行進セハ忽チ膨クレル故ナリ又全

ク新シキ靴ヲ穿ク可ラス必ス前以テ慣ラシ置クヘシ

其他靴ハ破損ナク且ツ適度ニ脂ヲ塗リテ柔軟ナラシム

ヘシ

第七十六 襦袢及ヒ袴下ハ屢々洗ヒテ清潔ニスベシ

第七十七 帶皮ハ甚タ緩ク結フトキハ身体ヲ擦リ又之

ヲ堅ク結ヘハ呼吸ヲ切ナラシムルニ因テ適度ニ結フヘ

シ

行軍中

第七十八 兩便ハ成ル丈ケ休止ノ時ニ於テスヘシ行軍

中ニ之ヲ爲セハ舊トノ位置ニ歸ル爲メニ大ニ疲ル、故

ナリ

第七十九 休憩中ハ快ヨク休息シ兩便ヲ濟シ汗ヲ拭ヒ

靴足袋及ヒ靴下ノ皺ヲ直シ又靴ヲ穿キ換ヘ水筒モ水ヲ

入ルヘシ

第八十 携帶スル午食ハ示サレタル時刻ニ食フヘシ隨

意ニ食フ時ハ胃ヲ害シ消化ヲ遮ル者ナリ

第八十一 水筒ノ飲物ハ妄ニ飲ムコトナク只タ必要ナル

場合バアヒニノミ之ヲ飲ムヘシ

第八十二 飲物ヲ飲ムニハ甚シク急ニ爲ス可ラス又甚シク餘計ニ飲ム可ラス之ニ注意セヌ時ハ大ニ害ヲ爲ス者ナリ

着營後

第八十三 宿泊地ニ到着シテ隊列ヲ解カルトキハ飲食店等ニ立寄ルトキハ空腹ノ爲メニ暴飲暴食ヲ爲シ病ヲ起スニ至ルコトアルヘシ

第八十四 已ニ隊列ヲ解カレ宿舍ニ至ルノ途中勉メテ

徐カニ歩ムヘシ若シ急ニ宿舍ニ赴カントスル時ハ益々足ヲ傷メルコトアリ

第八十五 宿舍ニ着タル後直ニ膚ヲ現ハシ冷タキ空氣ニ觸ル、時ハ感冒ニ罹ルコトアルヲ以テ殊ニ注意スヘシ然レモ汗濕ミタル襦袢袴下等ハ必ス之ヲ更ムヘシ

第八十六 不潔ト爲リタル者ハ速ニ之ヲ洗ヒ靴ハ能ク脂ヲ塗り置クヘシ

第八十七 足ハ好ク洗ヒ又濕氣ナキ様ニ能ク之ヲ拭ヒ靴擦等アレハ勉メテ速ニ療治スヘシ若シ浴湯ノ設アレハ勉メテ入浴ルヘシ



第八十八 食物ハ過度ニ食フ可ラス 食物ノ如キ不消化  
物ハ決シテ食フ可ラス

夜行軍

第八十九 夜行軍ハ敵ニ先ツテ必要ナル土地ヲ占メ  
トスルカ又ハ夏時晝間ノ暑ヲ避ケントスルトキ行フノ

第九十 夜行軍ニテハ遠方ヲ見ル可ラサルヲ以テ晝間

ヨリハ一層用心ヲ爲サ、ル可ラス故ニ尖兵殊ニ斥候等  
ハ甚シク本隊ヲ遠カルヘカラス  
尖兵斥候等ハ能ク見ルヨリハ能ク聞ク方ニ心ヲ用フヘ

シ夜間ニ在テハ僅カナル響モ能ク聞ユル者ナレハ時々  
歩ヲ止メテ之ヲ聞キ亦已ノ動作モ勉メテ響キナキ様ニ  
注意スヘシ

第九十一 夜行軍ハ最モ道ニ迷ヒ易キ者ナレハ尖兵斥  
候ハ常ニ之ニ注意シ殊ニ連絡兵ハ屢々止リテ後方ノ隊  
來ルヤ否ヤニ注意スヘシ

駐軍 通則

第九十二 駐軍トハ軍隊一日或ハ數日一地ニ宿泊スル  
ヲ云フ

第九十三 駐軍スル時ハ其軍隊ノ一部ヲ取テ遠ク前ニ  
 備ヘテ不意ニ敵ニ襲ハレヌタメニ晝夜用心ヲ爲サシム  
 コレ前哨ト云フ

第九十四 前衛ハ敵ノ方ニ通スル諸道路ハ悉ク見張テ  
 僅カナル敵ハ之ヲ追ヒ拂ヒテ本隊ヲ安全ニ休息セシメ  
 マタ若シ數多ナル敵來ルトキハ之ヲ防キテ本隊ニ戰鬪ノ  
 用意ヲ爲スノ間合アラシムルニ任ス

第九十五 前哨ハ前衛ト爲リタル兵隊ヨリ取り又小サ  
 キ隊ニテハ其前衛ヲ悉ク取りテ用ユル者ナリ

第九十六 前哨ハ通常前哨本隊前哨中隊小哨ノ三ツニ

分ツ 仮令ハ一大隊前哨ト爲ル時ハ其大隊ハ二或ハ三中  
 隊ヲ殘シテ前哨本隊ト爲シ一或ハ二中隊ヲ前方ニ出シ  
 テ一或ハ二個前哨中隊ト爲シ前哨中隊ハ一或ハ二小隊ヲ  
 出シテ一或ハ二小哨ト爲ス人數少キ隊ニ在テハ前哨中  
 隊ト小哨ノ二ツニ分ツノミ

第九十七 前哨中隊ハ小哨ヲ出ス丈ノ要ナキ時ハ下士  
 ノ指揮セル一二分隊ヲ前方ニ出ス之ヲ獨立下士哨ト云  
 フ

第九十八 小哨ハ其前方ニ歩哨ヲ備ヘ若シ歩哨ノミニ  
 テ不十分ナル時ハ下士ノ指揮セル數名ノ兵ヲ前方ニ出

ス之ヲ下士哨ト云フ  
 又歩哨ハ一處ニ二名アルトキハ複哨ト云ヒ唯一名ナル  
 時ハ單哨ト云フ而シテ歩哨ノアル一帯ノ地ヲ歩哨線ト  
 云フ

第九十九

前哨ノ各部隊ハ皆ナ不意ノ用心ト敵ノ景況  
 ヲ知ル爲メ遠ク前方ニ二名以上ノ兵卒ニ一人ノ長ヲ附  
 ケテ巡回セシムルヲアリ之ヲ斥候ト云フ

小哨

兵數距離

第百

小哨ハ一小隊或ハ半小隊ニシテ其長ハ士官ナリ

前哨一般ノ配置法



然レ凡半小隊以下ニテハ其長ヘ下士ナルコアリ

第百一 小哨ハ通常前哨中隊ヨリ三百乃至四百米突ノ地ニ出サル、者ナリ

任務

第百二 小哨ハ歩哨下士哨斥候等ヲ出シテ晝夜見張ヲ

爲シ小ナル敵來レハ直ニ之ヲ追掃ヒ人員多キ敵來レハ

永ク之ヲ支ヘ若シ敵益々進ミ來レハ成ルヘク遠キ道ヲ

取リテ敵ノ進ムヲ遅クシテ前哨中隊ニ退クヘシ

第百三 歩哨ト爲ルヘキ者ト斥候ト爲ルヘキ者トハ混

雜ナキカ爲メニ各別ニ銃ヲ組ミ其殘リノ兵ハ使役ニ當

テラル、者ナリ

警戒

第百四 小哨ニアル兵ハ歩哨ノ配置終ルニ非レハ銃ヲ

組ム可ラス又夜曉前ニハ敵ノ來リ襲フ者ナレハ組ンタ

ル銃モ解キテ用心スヘシ

銃ヲ組ムト雖凡甚シク其地ヲ離ル可ラス極メテ敵ニ近

キ時ハ常ニ銃ヲ取リタルマ、ニテ休息スルコアリ

第百五 命令アルニ非レハ背囊ヲ卸シ烟草ヲ吸フ可ラ

ス背囊ヲ卸スノ命アルモ彈藥盒帶皮水筒ハ決シテ身ヲ

離ス可ラス烟草ヲ吸フカ如キハ夜間ハ敵ノ爲メニ小哨

ノ位置ヲ知ラル、ノ恐アリ

又高聲ナル談話唱歌及無用ニ奔走スルハ最モ慎ムヘシ

第百六

時刻來レハ互ニ隙キヲ見合セテ食事ヲ終リ兩

便モ常ニ濟シ置クヘシ

夜間ハ小哨ニアル者ハ半數宛交番ニ眠ルヘシト雖モ敵

ニ近クトキハ晝間眠リテ夜間ハ全ク眠ル可ラス

第百七

小哨ニアル者ハ唯其長ノ命令アリタル時ノミ

動作スレハ足レリト思フ可ラス必ス各自常ニ用心シテ

何事ニテモ變リタル狀況アレハ之ヲ小哨長ニ報告スヘ

シ

歩哨

配置

第百八

歩哨ヲ配置シ終ル迄ハ不意ノ用心ノ爲メニ遠

ク前方ニ斥候アリテ見張ヲ爲ス者ナリ

第百九

前方ニ出サル、歩哨ハ通常複哨ニシテ一ヶ所

ニ三複哨ヲ充テ三回ノ交代ヲ爲ス爲メニス

第百十

最初配置ヲ爲ス時ニハ三複哨即チ六名ノ兵ハ

下士或ハ上等兵ニ誘ハレテ近徑ヲ取リテ複哨ノアルヘ

キ地ニ至リ此處ニテ小哨長ヨリ守則ヲ受ケ後ニ交代ス

ル兵モ共ニ其守則ヲ聞クヘシ

復哨フクセウ已ニ全マツタク守則シユソクヲ受クレハ他タノ二組フタヒノ復哨フクセウハ又下士マタカシ或アルヒハ上等兵シヨウトウヘイニ率トモナハレテ小哨セウセウニ歸ルカヘ

守則シユソク

第一百十一

復哨フクセウ毎ニ各別カクベツニ與アタヘラル、守則シユソクハ左サノ如シゴト

一復哨ノ番号

復哨フクセウノ番号バンガウハ右ヨリ順次ジュンシニ付ケラル、者モノニシテ若シ復哨フクセウニテ不十分フジュブンナルカ爲メニ下士哨カシセウヲ置カル、時ハ此下士哨コカシセウヲ并セテ番号バンガウヲ付ケラル因テ前マヘニ示ス一般パンノ前哨配布ゼンセウハイフノ圖ヅノ如ク右ミデニアル復哨フクセウハ第一復哨次フクセウツギニアル下士哨カシセウハ第二下士哨カシセウ左サニアル復哨フクセウハ

第三復哨ト云フ

二隣歩哨ノ位置及其番號

隣歩哨リンホセウノ位置イチチ及ヲヨビ其番號バンガウスレハ見ルヘキアリ若シ此カクノ如クスルモ見得ミエヌ時ハ何處邊ドノヘンニ在ルアリ承知シヤウチセハ可ナリ若シ全ク見ルヘカラサル時ト雖イモ其守ルヘギ區域クイキナ内ナヲ十分ニ見得レハ敵兵テキヘイ潛カニ入り込ムノ憂ナシ左圖サズニ於テ第一復哨フクセウト第二復哨フクセウトノ間アイダニハ稻荷社イナリシヤノ森前方モリゼンホウニ出張デハリタルカ爲メニ兩復哨リョウフクセウハ互ニ見合フミアテ能ハス然レモ森ノ前方ゼンホウハ兩復哨リョウフクセウヨリ見通スミトホテ出



來ルヲ以テ敵ノ潜カニ入り込ム憂ナシ夜間ニ在テ  
 ハ該森ニハ別ニ步哨ヲ置カル、カ又ハ兩複哨ヨリ  
 一名宛該森迄互ニ往復シテ連絡ヲ取ルヘシ  
 三查哨小哨及中隊ノ位置

查哨及ヒ小哨ノ位置ハ其單哨ニ依テ知ルヘキア  
 リト雖モ尙ホ單哨モ見ルヘカラサルトキハ遠クヨ  
 リ見得ヘキ樹木或ハ家屋等ニ因テ知ルヘシ  
 中隊ノ置位ハ遠ク後方ニアルヲ以テ常ニ其位置ヲ  
 知ルヘキ樹木家屋等在ル者ニ非ラス然レモ中隊ハ  
 通常本道ノ上又ハ諸道路ノ交叉點其他敵ヲ防クニ

便利ナル地ニ在ルヘキ者ナレハ其位置ヲ知ルハ甚  
タ易キ者ナリ

四 查哨小哨及中隊ノ位置ニ通スル捷徑

此捷徑ハ敵ニ見ラレサル者ヲ撰ムヘシ其遠近甚シ  
キ差ナキ時ハ稍ヤ遠キト雖厄敵ニ見ラレサル者ヲ  
良トス

五 前方ニ進メル部隊ノ位置

若シ連絡ヲ取ル爲メニ各部隊ニ於テ其最モ近キ地  
ニ置カル、歩哨ナレハ其前方ニ進メル中隊或ハ小  
哨ノ位置ヲ承知スヘシ若シ前哨ノ最モ前方ニアル

歩哨ナレハ通常更ニ其前方ニハ前哨騎兵アルヘキ  
ヲ以テ其位置ヲ承知スヘシ

六 見張ヲ爲スヘキ地方及敵情

見張ヲナスヘキ地ハ通常道路又ハ小流等ニテ限ラ  
ル、モノナリ

敵ノ情况ハ其一般ノ方向及殊ニ其屢々近キ來タル  
方向

七 眼ニ觸ル、村落等ノ名稱

若シ數個ノ村落アルトモハ右ナル者ハ何々中央ニ  
アル者ハ何々左ニアル者ハ何々ト能ク其名稱ヲ覺



第一百十二

エ以テ彼此間違ヲ爲スヘカラス

各歩哨一般ニ守ルヘキ者ハ左ノ如シ

一步哨ハ絶エス敵ノ方位ヲ見張リ凡テ疑ハシキ徴候

ニ深く注意シ若シ敵ニ關シ見出セシトアレハ速ニ

其一人ハ小哨若クハ中隊ニ報スヘシ若シ猶豫セハ

危殆ニ陥ルト認メシ時或ハ敵襲ト知リシ時ハ數回

ノ射撃ヲ爲シテ報知スヘシ

二晝間ハ我軍ノ將校稠密部隊斥候及傳令使ニ歩哨線

ノ出入ヲ許ス自餘ノ者ハ悉ク查哨ニ至リ認可ヲ請

ハシムヘシ若シ其查哨ノ指示シタル方向ヘ直チニ

往カス尙ホ歩哨線ヲ通過セントスル者及凡テ其命

スル所ニ從ハサル者アレハ歩哨ハ之ヲ射撃スヘシ

三步哨ハ常ニ早ク敵ノ近クヲ見出スノ方法ヲ考フヘ

シ即チ音響ヲ聞カンカ爲メ耳ヲ地上ニ接ケ又時ト

シテハ谷又ハ家屋其他隅角ニ一ノ歩哨ヲ伏セシメ

テ敵ノ潜ニ進ミ來ラサルヤニ注意シ又岩石高地等

ニ登リテ能ク遠方ノ見張ヲ爲ス等ナリ

又歩哨ノ一名ハ夜間ハ足音蹄音其他訝シキ喧噪ア

ル方向ヲ巡視スヘシ

確カニ敵ヲ目撃スルニ非レハ發射スヘカラス然ラ

サレハ故ナクシテ露營若クハ舍營スル所ノ軍隊ヲ  
 騷擾セシメ或ハ睡眠ヲ妨クヘシ  
 四敵ノ一將校僅少ノ兵卒ヲ率井白旗若クハ白布ヲ翻  
 ヘシ或ハ記號ヲ以テ遠方ヨリ其軍使タルヲ標シ來  
 ル時ハ之ヲ待遇フニ敵ヲ以テセス指示シテ查哨ノ  
 方ニ往カシムヘシ此規則ハ敵ノ單獨兵銃ヲ投棄テ  
 或ハ之ヲ倒ニ携ヘ或ハ遠方ヨリ呼ヒテ其降參人タ  
 ルヲ標スル時ニモ亦適用ス然レモ此ノ如キ者ハ  
 先ツ其身ニ着ケタル武器ヲ除ケシムヘシ  
 查哨ハ軍使ヲ百歩ノ地ニ止メ降參人ナル片ハ約百

米突前ニテ武器ヲ取ラシム若シ馬ニ乘リタル者ナ  
 ル時ハ馬ヲ下リ背ヲ面カシメ下士ハ將校ノ指揮ニ  
 應シ二名ノ兵卒ヲシテ小哨ニ護送セシム  
 五歩哨ハ命令アルニ非レハ座シ或ハ手ヨリ銃ヲ離ス  
 ヲ許サス又上官ノ來ルアルモ之ニ敬禮スルヲ要セ  
 ス若シ上官ヨリ質問アレハ唯姿勢ヲ正クシテ答フ  
 ヘシ是レ其監視ヲ中止セサラシメンカ爲メナリ  
 歩哨ハ其指命ノ地ヲ去ル可ラス是レ我カ小哨長交  
 代ノ兵及斥候ハ常ニ歩哨ヲ見出スヲ得且屢々位置  
 ヲ轉スルカ爲メニ敵ニ我歩哨ノ所在地ヲ知ラル

一勿<sup>ナカ</sup>ランカ爲<sup>タ</sup>メナリ

六夜間<sup>ヨルホ</sup>歩哨<sup>セウ</sup>ニ近<sup>チカ</sup>ク者<sup>モノ</sup>アレハ歩哨<sup>ホセウ</sup>ハ銃<sup>シウ</sup>ヲ構<sup>カマ</sup>ヘ止<sup>ト</sup>マレ誰<sup>タレ</sup>

カト呼<sup>ヨ</sup>フ若<sup>モ</sup>シ止<sup>ト</sup>マレト呼<sup>ヨ</sup>フ一三次<sup>ド</sup>ニ至<sup>イ</sup>ルモ尙<sup>ナ</sup>ホ止<sup>ト</sup>

マラサル者<sup>モノ</sup>アレハ射擊<sup>シヤゲキ</sup>スヘシ凡<sup>ベ</sup>テ其他<sup>ソノタ</sup>ノ處置<sup>シヨチ</sup>ハ晝<sup>ヒ</sup>

間<sup>ル</sup>ニ異<sup>カ</sup>ハルコナシ

敵兵來ル時ノ處置

第一百十三 敵來ルヲ見レハ復哨<sup>フクセウ</sup>ノ一名<sup>イ</sup>ハ直<sup>ス</sup>ニ往<sup>ユ</sup>テ之<sup>コレ</sup>ヲ

小哨<sup>セウ</sup>ニ報知<sup>ホウチ</sup>シ他<sup>タ</sup>ノ一名<sup>ヒトリ</sup>ハ勉<sup>ツト</sup>メテ其身<sup>ソノミ</sup>ヲ匿<sup>カク</sup>シ敵<sup>テキ</sup>如何<sup>イカ</sup>ナル

動作<sup>ドウサ</sup>ヲ爲<sup>ナ</sup>スカニ注意<sup>チュウイ</sup>シ若<sup>モ</sup>シ敵<sup>テキ</sup>ノ來<sup>キタ</sup>ル意外<sup>イグワイ</sup>ナル時<sup>トキ</sup>ハ射擊<sup>シヤゲキ</sup>

ヲ以<sup>モツ</sup>テ之<sup>コレ</sup>ヲ報知<sup>シラ</sup>スヘシ

第一百十四 小哨兵<sup>セウセウヘイ</sup>ノ來<sup>キタ</sup>ル迄<sup>マデ</sup>ハ勉<sup>ツト</sup>メテ敵<sup>テキ</sup>ヲ支<sup>サ</sup>ハ近<sup>チカ</sup>ツクコ

能<sup>アタ</sup>ハサラシムヘシ之<sup>コレ</sup>レカ爲<sup>タ</sup>メニハ少<sup>ス</sup>シモ狼狽<sup>ウロタエ</sup>スルコナ

ク能<sup>ヨ</sup>ク沈着<sup>シヤウ</sup>テ狙<sup>ネライ</sup>ヲ定<sup>サタ</sup>メテ射擊<sup>シヤゲキ</sup>スルヲ要<sup>ヨウ</sup>ス此<sup>カク</sup>ノ如<sup>ゴト</sup>クシテ

每發<sup>マイハツ</sup>命中<sup>アタ</sup>リテ先<sup>サキ</sup>ニ進<sup>ス</sup>ミ來<sup>ク</sup>ル敵兵<sup>テキヘイ</sup>數名<sup>スウイ</sup>ヲ倒<sup>タタ</sup>サハ敵<sup>テキ</sup>ハ一時<sup>イチジ</sup>

其行進<sup>ソノカウシン</sup>ヲ遲<sup>ヲツ</sup>カラシムル者<sup>モノ</sup>ナリ

第一百十五 敵益々<sup>テキキマス</sup>進<sup>ス</sup>ンテ復哨<sup>フクセウ</sup>退<sup>シリ</sup>カサルヲ得<sup>エ</sup>サルニ至<sup>イ</sup>レ

ハ勉<sup>ツト</sup>メテ迂<sup>マハ</sup>リ道<sup>ミチ</sup>ヲ取<sup>ト</sup>リ敵<sup>テキ</sup>ヲ疑<sup>ウタガ</sup>ハシメ以<sup>モツ</sup>テ其行進<sup>ソノカウシン</sup>ヲ

遲<sup>ヲツ</sup>カラシムヘシ

交代

第一百十六 步哨<sup>ホセウ</sup>ノ交代<sup>コウタイ</sup>ハ小隊長<sup>セウタイチヨウ</sup>ノ定<sup>サダ</sup>メラレタル時刻<sup>シコク</sup>ニ

於テス

第一百十七

步哨交代ノ時ハ新舊両歩哨ハ敵ノ方向ニ面ツテ並列シ舊歩哨ハ新歩哨ニ其守則及其實見セシ事件ヲ傳ヘ告クヘシ但此交代ニハ必ス歩哨掛リ下士或ハ上等兵ノ立合アルヘキ者ナリ

第一百十八

舊歩哨ハ小哨ニ歸レハ查哨ニ送リタル者及敵ニ於テ見聞セシ事件ヲ小哨長ニ報告スヘシ敵ニ於テ見聞セシ事件ナキ時ト雖モ尙ホ其ナキヲ報告スヘシ

下士哨

兵數

第一百十九

下士哨ハ一ツノ復哨ニ三組ヲ充テンカ爲メニ兵卒六名ヲ備ヘ下士其長ト爲ル時トシテ上等兵其長ト爲ルヲアリ

任務

第一百二十

又下士哨ハ守ルヘキ地點カ小哨ヨリ遠ク隔リテ復哨ヲ交代スルニ甚タ困難ナル場合ニ置ル、者ナリ下士哨ハ極メテ必要ナルカ又ハ最モ危キ地點ヲ守ルニ任セラル、者ナリ

第一百二十一

下士哨ハ外來人ヲ檢査スルニ任セラル、  
一アリ然ル時ハ查哨ト名ツク

然レ凡餘リ查哨ノミニ任セラル、一少ナク通常別ニ前  
項(第百二十)ノ如キ任務ト兼子任セラル、一多シ

配置

第百二十二 下士哨ハ複哨ト同線上ニ配置セラル、者  
ナレハ已ニ述フルカ如ク番号モ複哨ト通シテ附ラル

第百二十三 下士哨ハ前ニ一ツノ複哨ヲ出シ他ノ者ハ  
複哨ノ後方三四十米突ノ所ニ在リテ力メテ敵ノ眼ニ當  
ラヌ様ニ匿ル、ヲ要ス

敵兵發見セシ時ノ注意

第百二十四 僅カナル敵來レハ小哨ノ加勢ヲ待ツコナ

ク之ヲ追ヒ掃ヒ若シ敵多キ時ハ成ル丈ケ永ク支ヘテ小  
哨ノ加勢ヲ乞フカ又ハ逐次ニ小哨ノ方ニ退クモノナリ  
第百二十五 時トシテ必要ナル地部ヲ見廻ルカ爲メニ  
更ニ二三名ノ兵ヲ増スコアリ

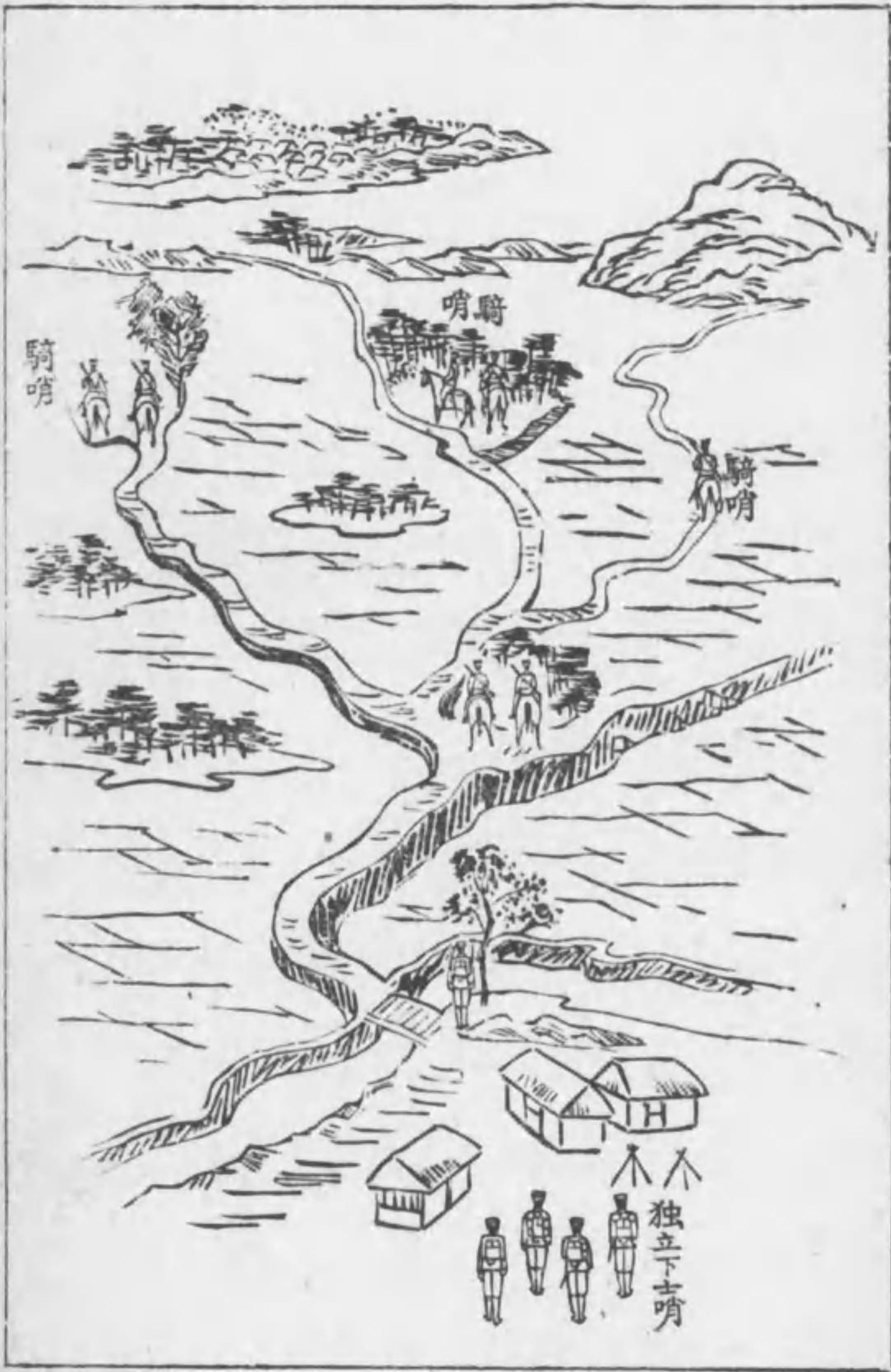
獨立下士哨  
兵數

第百二十六 獨立下士哨ノ人員ハ兵卒六名乃至十五名  
ニシテ其長ハ下士ナリ  
第百二十七 極メテ稀レナル場合ニハ兵卒三四名ナル  
コアリ其長モ士官又時トシテハ上等兵ナルコアリ

任務

第二百二十八 獨立下士哨ハ小哨ノ小ナル者ナレハ其任務及動作モ亦タ小哨ト同シ規則ニ從フ故ニ小ナル地區ヲ獨立シテ守リ時ノ景況ニ應シテ一個或ハ二個ノ複哨ヲ出シ又斥候ヲ出シテ敵狀ヲ探リ其他鄰接セル小哨并ニ近隣ニ在ル中隊ト連絡ヲ取ル者トス

第二百二十九 時トシテハ遠ク前方ニ在ル前哨騎兵ノ援護ノ爲メ左圖ノ如ク歩哨線ノ前方ニ於テ村落或ハ橋梁等ヲ守ルコトアリ  
又夜間歩哨線ノ前ニ於テ敵方ニ通スル道路ノ近方ニ匿



レ敵ノ運動ヲ見ルニ任セラル、トアリ

敵兵ヲ發見セシ時ノ注意

第三百三十

複哨敵ヲ見タル時ノ動作ハ小哨ノ複哨ニ同シ  
後方ニ在ル兵ノ動作モ小哨ノ兵ニ於ルカ如シ而テ小哨  
ニ比スレハ其人員少キヲ以テ諸兵ハ百事ニ用心ヲ爲ス  
ヘシ殊ニ歩哨線前ニ遣サレタル時ハ敵ノ爲メニ退路ヲ  
遮ラル、トアルヲ以テ能ク注意スヘシ

第三百三十一

夜間歩哨線前ニ遣サレタル時敵ノ運動我  
カ爲メニ危キ時ハ劇シキ射撃ヲ爲シテ之ヲ後方ニ知ラ  
スヘシ

斥候

一般ノ通則

第三百三十二

前哨ノ斥候ハ恰モ遊動スル歩哨ニ異ラス  
シテ敵ノ景況ヲ候ヒ且搜索ヲ絶ヘサセヌトニ任スル者  
ナリ

第三百三十三

搜索ハ通常騎兵ノ任ナレ其區域中歩兵  
ニ適スル距離ハ歩兵ヲ斥候トシテ遣サル、ノミナラス  
全ク騎兵ナキ時ハ歩兵常ニ斥候ニ任セラル、モノナリ

第三百三十四

行軍ノ斥候ノ所ニ記スル動作ト注意トハ  
前哨ノ斥候ニモ用ユヘシ

教示

第三百三十五 斥候カ與ヘラル、教示ハ概テ左ノ如シ

一 敵ノ狀況

二 取ルヘキ道路

三 特ニ注意シテ搜ルヘキ地

四 歸ルヘキ時限(所要ノ時)

五 記號

種類及任務

第三百三十六 斥候ニハ左ノ四種類アリ

一 歩哨ヲ配布スル間ニ不意ノ敵ニ備フル爲メニ出

サル、モノ

一 前哨ノ側面又ハ背面ヲ敵ニ襲ハル、ノ恐アル時

出サル、モノ

一 敵ノ踵ヲ附クル爲メニ出サル、モノ

一 土地ヲ搜リ且ツ敵ノ斥候ヲ撃テ退ケ又ハ敵ノ下

士小哨等ヲ追掃ヒ或ハ之ヲ擒ニスル爲メニ出サ

ル、モノ

第三百三十七 第一種ノ斥候ハ歩哨線ノ前方數百米突ニ

テ遠方ヲ見得ヘキ地ニ止リテ見張ヲ爲シ歩哨ノ配布終

レハ退ク者ナリ



第三百二十八 第二種ノ斥候ハ往々困難ナル地區ノ見張ヲ爲シ之レカ爲メニハ敵ノ來ルヘキ路ニ注意シ夜間ニ在テハ屢々止リテ能ク聞キ若シ遠クヨリ敵來ルノ響アレハ之ニ向テ行進スヘシ

第三百二十九 第三種ノ斥候ハ射撃ヲ以テ敵ヲ追ヒ退ケタル後敵復タ追駈ケテ再ヒ來レハ射撃シ且ツ急ニ我兵ニ通知シ若シ敵止マレハ唯タ歸リテ報告スルノミ

第四百十 第四種ノ斥候ハ若シ敵ヲ欺ク一カ出來ヌ時ハ敵ノ内部ノ景况ヲ見シカ爲メニ兵力ヲ以テス因テ此時ハ勇氣ヲ振テ速カニ進ンテ速ニ退クヘキモノナリ

兵數距離

第四百十一 通常斥候ハ兵卒二名ニシテ大切ナル場合ニハ將校其長ト爲リ其他ノ場合ニハ下士或ハ上等兵其長ト爲ルコトアリ

第四百十一 一步哨ヲ配布スル間ニ出サル、斥候ハ數組ヲ出サレ側面又ハ背面ニ出サル、斥候ハ三名若クハ之レヨリ以上ノ兵ナルコトアリ敵ノ踵ヲ付ケル爲メノ斥候ハ二名又ハ三名敵ノ内部ニ入ル斥候ハ半小隊以上ナルコトアリ

歩哨線外ニ出ツル斥候ノ前進スヘキ距離ハ通常五百米

突トス但シ敵ノ内部ノ景況ヲ知ル爲メニ出サル、斥候ハ五百米突以上ニ至ルコアリ

出發前ノ注意

第四百十三 斥候ハ出發ノ際小哨長ヨリ守則ヲ受ケ尙ホ彈藥等ノ不足ナキヤニ附キ檢査ヲ受ケ若シ相離ル、場合アレハ集マルヘキ點ヲ定メラル集マルヘキ點ノ一ハ行軍ノ時ノ斥候ノタメニ記ス者ヲ見ルヘシ集マルヘキ點ハ通常我前哨兵ヨリ助ケラル、距離ニア

往復ノ道路及時刻

第四百十四

各小哨ハ斥候路ヲ規定シテ同一路ニハ同一ノ斥候ヲ充テ且ツ一ノ斥候歸還セントスル時他ノ斥候ハ已ニ發遣シ以テ一ノ斥候ハ常ニ路上ニアラシムヘシ往路ト歸路ハ別ニ撰ヒテ敵ニ中斷セラル、危險ヲ避クル爲メニスヘシ

第四百十五

歸還ノ時刻ハ概ネ定メラル、者ナリ

步哨線ノ通過ニ就テノ注意

第四百十六 斥候ヲ出ス時ハ之ヲ各步哨ニ通知スヘシ之レ其通過路ヲ規定スルモ敵ニ追ハレタル時ハ何レノ道路ヨリ歸還ヘキカ測ル可ラサルヲ以テ步哨ノ敵ト誤

認ルコト勿ランカ爲メナリ

第四百四十七

凡テ斥候ハ歩哨線ヲ通過スル時及近隣ノ歩哨ニ其往ク所ノ方向若クハ其歩哨ノ監視区内ニ於テ敵ニ關シテ見シコトノ事件ヲ短簡ニ告知スヘシ又其歩哨ノ見シ事件モ聞取ルベシ

行進中ノ注意

第四百四十八

斥候行進スルノ方ハ豫メ之ヲ定ム可ラサレモ或ハ互ニ合議スル爲メニ集リ或ハ各方向ヲ探知ラシカ爲メ隔離ス而テ其隔離スルニ一名ノ兵急襲ヲ受クルカ又ハ連絡ヲ失フタル時互ニ視ル能ハス又タ聞ク能

ハサルニ至ル可ラス

斥候ハ甚シク離隔レタル片又ハ搜索ノ至ラサル地ナカラシメンカ爲メニ一定ノ目標ヲ指示スヘシ

斥候若シ分散シタル時ト雖モ報告スヘキ要件アル時ハ速ニ歸還ルコトヲ勉ムヘシ

第四百四十九 斥候ハ其進退動作ニ深く注意シ静ニシテ喧噪ナル可ラス又屢々駐止シテ響ヲ聽キ能ク地形ヲ暗

第四百四十九

ンスヘシ是レ地形ニ就テノ解説ヲ爲シ且ツ時宜ニ因リテハ先導ト爲リ得ヘキカ爲ナリ 斥候ハ其進退動作ノ輕捷ナランカ爲メ時ノ形勢ニ從ヒ

背囊ヲ脱セシメテ派遣スルヲ得

第百五十

大ナル迂回ト労働トハ斥候ノ免ル可ラサル  
處ナリ而シテ其任務ヲ盡スト否トハ勉メテ潜ミ行キテ  
敵ノ眼ニ觸レサルノ如何ニ因ル

第百五十一

全身ヲ覆スヘキ森林、濠溝、耕作物ノ高ク成  
長タル隴畝、凹地、谷間等ハ晝間ト雖モ前方ニ潜レ進ムヲ  
得ヘシ然レモ往々匍ヒ行クヲ要スルコトアリ而テ視通シ  
自在ナル高地モ又タ棄ツ可ラス  
斥候ハ遠ク前方ニ在テ敵ノ斥候ト戰フコトヲ求ム可ラス  
否ラサレハ或ハ敵ノ發見スル所トナリテ烈シク撃却ケ

ラレ之レカ爲メ一モ得ル所アラサルニ至ル

第百五十一

斥候ハ我ヲ敵ノ如ク思ヒ且ツ密告セント  
スルノ人民アル恐レアル道路、村落ニシテ通行シ得ヘキ  
者ハ總テ之ヲ避クルヲ常トス敵ノ小ナル斥候ニ出遭フ  
時ハ其斥候ノ通過シ終ルマテ潜匿テ然ル後跡ヲ付テ行  
進シ敵ノ斥候極メテ我カ前哨ニ近ヅク時ニ限り之ヲ撃  
チ却クヘシ

敵兵ヲ發見セシ時ノ注意

第百五十三

敵ノ前哨發見ノ爲メ派遣セラレタル斥候  
敵線ヲ距ルコト已ニ聲音ヲ聞キ得ルニ至レハ勉メテ潜行

キ若シ一步哨ヲ發見セハ善良ナル地物ニ潜匿レ其長ハ速ニ鄰歩哨ヲ發見スルヲ勉ムヘシ是レ敵ノ二歩哨ヲ發見スレハ殆ント歩哨線ノ方向ヲ推知リ得ルヲ以テナリ而テ爲シ得レハ道路及内部ノ景況ヲ視察シ之ヲ終レハ速ニ退却ス若シ好機アレハ歩哨ノ一名ヲ捕獲スヘシ

**第一百五十四** 來進セル敵ヲ發見スル爲メニ派遣セラレタル斥候ハ森林若クハ耕作物ノ邊緣ニ潜行路ヲ開キ以テ敵ノ來ルヘキ道路ヲ視通フシ得ヘキ所ニ潜匿ス而テ敵來ルヲ見レハ斥候ノ一名ハ最モ迫リ來ル部隊ノ方ニ向テ進ミ已ニ近ケハ直ニ射撃ス

**第一百五十五** 敵兵衆多ナル時ハ劇シキ射撃ヲ爲シテ退却クヘシ此ノ如キ場合ニ在テモ成ルヘク能ク敵情ヲ視察シツ、退却スルコトヲ忘ル可ラス若シ退却路ヲ遮ラレタル時ハ速ニ側方ヨリ還ルヘシ

**報告**

**第一百五十六** 敵ヲ監視スル等ノ爲メニ其駐止久シキヲ要スル時ハ時々報告ヲ爲スヘシ是レ小哨長ヲシテ斥候ノ恙カナキト其動作トヲ知ラシメンカ爲メナリ

**第一百五十七** 斥候分散セル時必要ナル報告ヲ送ランニハ必スシモ集合點ニ集マルヲ要セス成ルヘク速ニ小哨

ニ達センコトヲ勉ムベシ

巡察

第一百五十八

巡察ハ歩哨ノ能ク其勤務ニ服スヤ否ヲ視

廻ル爲メ又ハ歩哨ト歩哨トノ間ニ連絡ノ不充ナルヲ

補フタメニ出サル、者ナリ

第一百五十九

巡察ハ兵卒二名ニ一名ノ長ヲ付ケ小哨或

ハ前哨中隊ヨリ出サル、者ナリ

第一百六十

巡察ハ敵ノ方ニモ絶ヘズ目ヲ配ルベシ然レ

凡歩哨線ヲ横ニ通ルハ敵ノ爲メニ我カ歩哨線ノ位置ヲ

知ラル、者ナレハ勉メテ敵ニ見ラレヌ様ニ行進スヘシ

宿營

通則

第一百六十一

宿營ニハ舍營村落露營露營ノ三種アリ

第一百六十二

舍營ハ家屋ニ在テ風雨寒暑ニ中タルノ恐

レナキヲ以テ身体ノ健康ヲ保ツニ最モ宜シキ者ナリ然

レ凡敵ニ襲ハル、時ハ速ニ集マリ之ヲ防クコトノ出來ヌ

害アリ

第一百六十三

舍營ニハ又タ狹縮舍營ト稱シテ力メテ多

數ノ兵ヲ一處ニ集メテ宿泊スル者アリ此舍營ハ十分安

樂ナラス然レ凡敵ニ襲ハル、時ハ速ニ集リテ敵ヲ防ク

ヲ得ルノ利アリ

第百六十四 村落露營ハ村落ノ家屋内ヘモ軒下縁側ヘ

モ庭ノ内ヘモ畑地ヘモ宿泊スル者ニシテ即チ雨露ニ逢

ハヌモノモ又雨露ニ打タル者モアルヲ云フ此ノ宿泊

法ハ狹縮舎營ヨリハ速ニ集マリテ敵ヲ防クヘキヲ以テ

敵ニ近キ時ハ此法ヲ用ユ

第百六十五 露營ハ人馬殘ラス家屋外即チ畑地又ハ野

原ニ宿泊スル者ニテ村落露營ヨリモ一層速ニ集マリテ

敵ヲ防クヘキヲ以テ敵ト近ク相對スル時ハ此法ヲ用フ

又人家少キ地方ニテハ必ス露營ヲ用ヒサルヲ得ス其他

前哨ニ任セラル者ハ概ネ露營スヘキ者ナリ

第百六十六 宿泊スル軍隊ハ不意ニ敵ニ襲ハレヌ爲メ

ニ必ス遠ク前方ニ前哨ヲ設クト雖モ是レノミニテハ安

心ナラサルヲ以テ用心ノ爲メ宿泊地エモ必ス晝夜見張

ノ兵ヲ置ク

其他宿泊地内外ノ風紀ヲ保ツ爲メニモ若子ノ兵ヲ備フ

舎營

設備

第百六十七 舎營ヲ爲スニハ設營隊ト名クル者ヲ先ツ

發セシメテ用意ヲ爲ス者ナリ聯隊ノ設營隊ニハ兵卒モ

二名又ハ四名ヲ附ケラル

第百六十八 通常ノ舎營ニハ一戸ニ兵員四名ヲ充テル者ナリ 狹縮ノ舎營ニハ疊一枚ニ一名ヲ充テ座敷ノミナラス土間椽側物置場ニモ藁ヲ布キテ一夜ヲ明カスモノナリ

長官ノ宿舎ニハ旗束藁等ヲ以テ標シト爲シ夜間ハ燈ヲ以テ標ト爲ス 軍樂隊及喇叭手ノ宿所ハ藁輪ヲ以テ標示ス

入舎前及入舎後ノ注意

第百六十九 入舎前ニハ舎營ニ於テ守ルヘキ規則ヲ言

ヒ聞カセラル、者ナリ

第百七十 舎營ノ規則ハ遊歩ヲ許サレ又ハ診斷ヲ受クル時刻流行病其他遊廓等アルカ爲ニ至ルヲ禁セラレタル場所集合所ノ場所翌日出發ノ時刻等ヲ示サル、モノナリ

第百七十一 兵卒ハ舎營ニ入レハ直ニ銃及靴ノ手入ヲ爲シ破損物ニテ自ラ修理スルヲ出来ル者ハ自ラ之ヲ爲シ出来ヌ物ハ之ヲ届ケ出テ速ニ修理ヲ請フヘシ 舎營中定規ノ服装ヲナサスシテ舎外ニ出ルヲ嚴禁ス 故ニ外出セントスル者ハ最モ服装ヲ正サハルベカラズ



舎營中ハ常ニ武器及器具ヲ整ヘ置キ縦令暗黒ト雖凡速  
 ニ武装シテ出發シ得ル様豫メ注意スヘシ  
 舎營中舎主ヨリ出ス物ノ外ハ一切物品ヲ請求スヘカラ  
 ス又力メテ厄介ヲ掛ケサル様注意スヘシ  
 舎營中舎主ノ方ニ不都合アルトモ獨斷ヲ以テ專行ヲナ  
 スヘカラズ順序ヲ經テ之レヲ上官ニ申告シ處置ヲ請フ  
 ヘク決シテ乱暴ノ行爲アルヲ許サス

衛兵

第一百七十二 舎營地ニ不意ノ敵ヲ用心スルタメニ備フ  
 ル兵ヲ外衛兵ト云ヒ風紀ヲ保ツタメニ備フル兵ヲ風紀

衛兵ト云フ

第一百七十三 外衛兵ハ歩兵ノ任スル所ニシテ時ノ景況  
 ニ因テ舎營地ノ前面側面背面ノ出口ニ歩哨或ハ下士哨  
 ヲ配布ス其諸動作ハ總テ前哨勤務ノ規則ニ從フモノナ  
 リ  
 歩哨ト爲ル者ハ前方ニ前哨兵アルヲ特ミニシテ油斷ス  
 ヘカラス

第一百七十四 風紀衛兵ハ宿泊地ノ内部ノ哨兵即チ軍旗  
 其他荷物罰人等ノ見張ノタメニ哨兵ヲ配布スル者ナリ

風紀

第七十五 遊歩等ヲ爲ス時ハ必ス定則ノ服装ヲ爲ス

ヘシ

許可ナクシテ舍營地外ニ出テ又ハ他隊ノ舍營地ニ至ル

可ラス

歸營號音アリタル時ハ必ス速ニ歸ルヘシ

第七十六 カメテ人民ノ妨ケヲ爲サヌコニ注意スヘ

シ又舍主ニ對シテ苦情ヲ述フ可ラス若シ不正ノコアレ

ハ之ヲ上申スヘシ

警戒

第七十七 銃ノ分解等ハ不意ノ用心ノ爲メニ各隊又

ハ一隊ノ半部宛交番ニ爲スヘシ

背囊モ入用ノ物ヲ出セハ離シ置ク可ラス

第七十八 武器及靴等ハ一定ノ場所ニ置キ夜間ト雖

モ間違ノナキ様ニスヘシ

彈藥ハ火ノ遠キ所ニ置クヘシ

第七十九 集合所ノ位置ヲ承知シ晝間ニ於テ捷路ヲ

探リ置クヘシ

點呼ノ時ハ別命ナキモ必ス銃ト彈藥盒ヲ携フヘシ

第八十 歸營號音ノ後ニハ決シテ許可ナクシテ他ノ

家屋ニ至ル可ラス

警報

第百八十一

警報ノ時ハ非常ノ號音アル者ナリ又時トシテハ混雜ナカラシメンカ爲メニ號音ナク大至急ナル

報知アルコアリ

第百八十二

警報アル時ハ百事狼狽スルコナクカメテ静カニシ必ス高聲ヲ發シ又騒カシキ動作ヲ爲スヘカラ

ス

第百八十三

警報アレハ各自直ニ武装シテ其隊ノ集合場ニ集リ其後守ルヘキ地點ニ導カル、者ナリ

村落露營及露營

設備

第百八十四

村落露營ニ於テ家屋内ニアル者ハ舍營ノ規則ニ從ヒ家屋外ニアル者ハ露營ノ規則ニ從フ

第百八十五

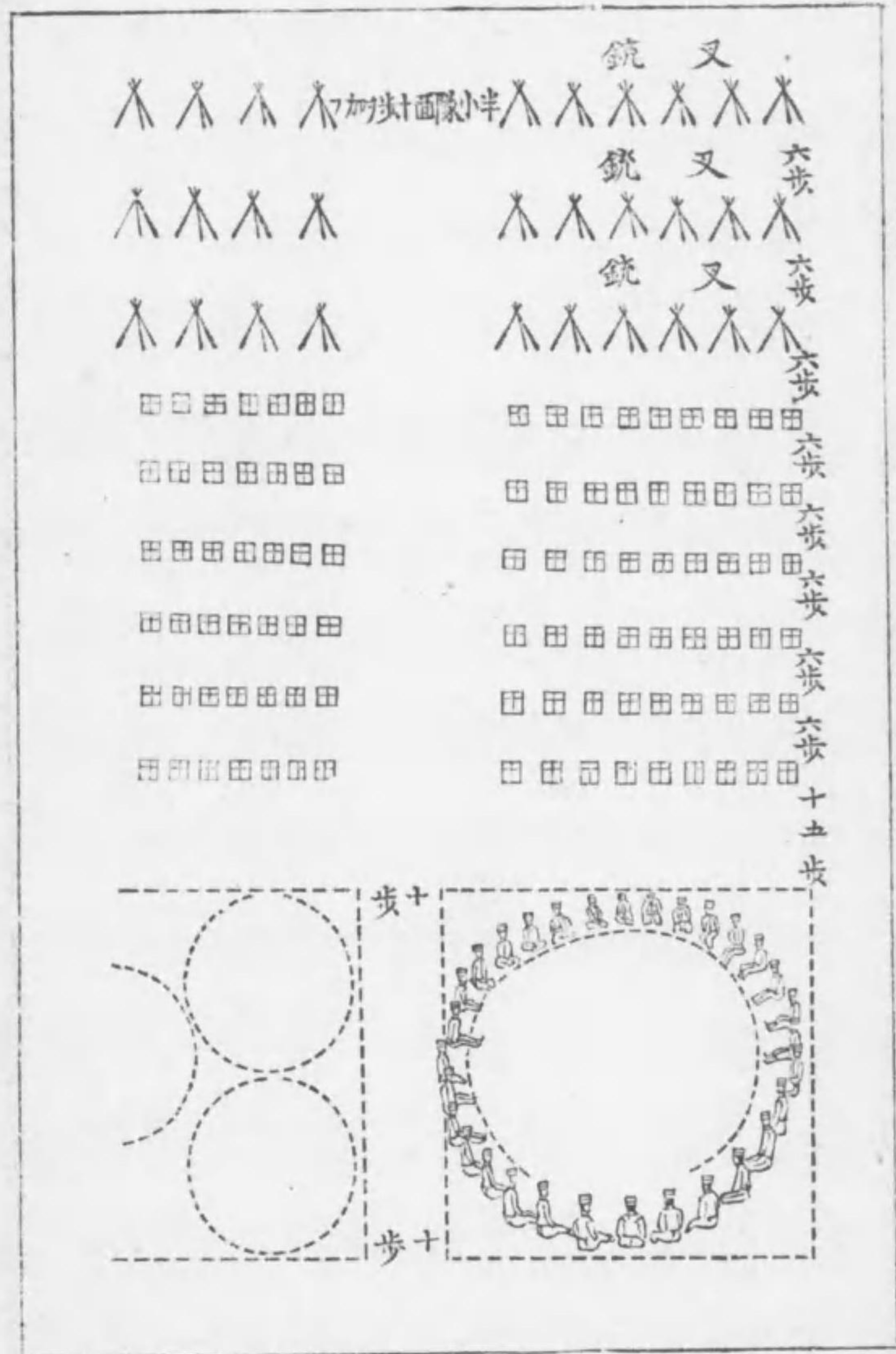
露營ハ多小風雨ヲ防キ又餘リ濕氣ナキ地ニ爲ス者ナリ

第百八十六

露營ハ通常大隊毎ニ縱隊横隊ニ位置スルモノニシテ各中隊ハ互ニ半小隊面ノ長サニ尙ホ十歩ヲ

加ヘタル間隔ヲ取ル

左圖ノ如ク銃ヲ組ミタル後チ第三小隊ノ又銃ヨリ後方ニ前列後列各列ニ六歩宛ノ距離ヲ取テ先頭小隊ヨリ逐



次ニ位置ス然ル後各自背囊ヲ卸ロス之ヲ終レハ最後ノ  
 背囊ノ線ノ後方ニテ幅一小隊半深サ四十歩ノ地内ニ一  
 個或ハ三個圓陣ヲ作テ休息ス因テ各中隊ノ休息所ノ間  
 ニ八十歩ノ間隔アリ此間隔ハ通行ノ爲メニ用ユ前ノ圖  
 ハ大隊中ノ中隊ノ露營ヲ示スモノナリ

衛兵

第百八十七 外衛兵及ヒ風紀衛兵ヲ置クハ舍營ノ時ト  
 同シ而テ風紀衛兵ハ大隊ノ又銃線ノ中央前ニ在ル者ト  
 ス

風紀警戒

第百八十八 村落露營又ハ露營ノ風紀ハ概ネ舍營ノ時

ニ變リタルコトナシ  
定メラレタル所ノ外ニ兩便ヲ爲ス可ラス

第百八十九 彈藥盒及水筒ハ常ニ其躰ヲ離ス可ラス

警報

第百九十 警報ノ時ハ各自直ニ背囊ヲ負ヒ又銃ノ所ニ

集マリテ命令ヲ待ツ者ナリ

第百九十一 外衛兵ハ別命アルマテハ其位置ヲ守ルヲ

要スル時ハ全力ヲ盡シテ敵ヲ防ク者トス

第百九十二 風紀衛兵ハ軍隊ノ殘セル道具荷物等ノ取

締ヲ爲シ其道付ヲ爲シタル後ニ軍隊ニ追ヒ隨フモノナ  
リ

方位ヲ知ルノ法

第百九十三 晝間ニ方位ヲ知ルニハ晴天ナレハ太陽ノ

位置ト時計トヲ見ルヘシ例ヘハ午前六時ナレハ太陽ハ

東ニアリ午後二時ナレハ太陽ハ少シク南ヨリ西ニ傾キ

三時ニハ太陽ノ西南ニ六時ニハ太陽ハ正西ニアルカ如

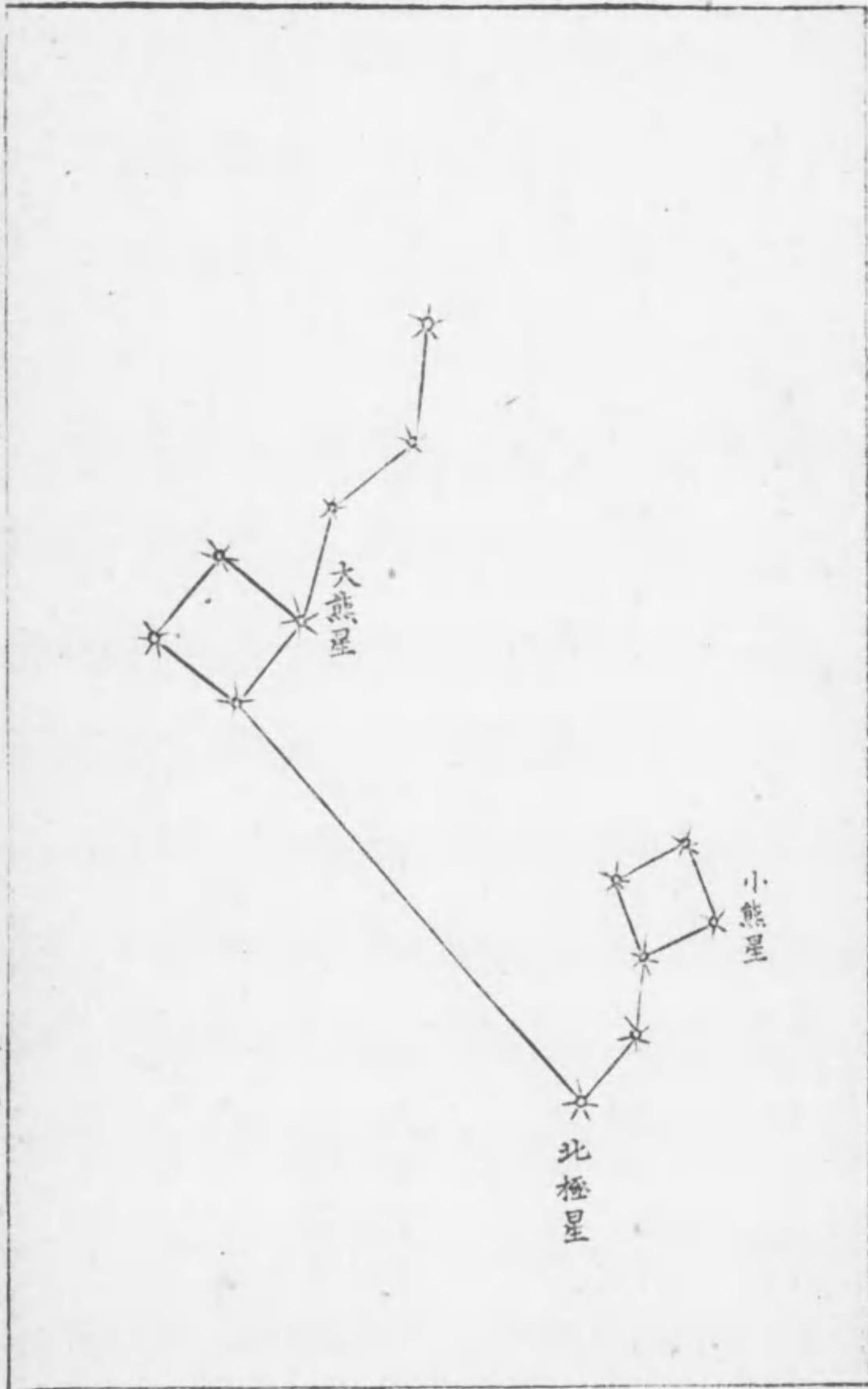
第百九十四 夜間ニ方位ヲ知ルニハ大陰ノ出沒盈虧ニ

依リテ考フヘシ即チ上弦ノ月ハ午後六時ニ南方夜半ニ

ハ西方ニアリ満月ハ午後六時ニ東方夜半ニ南方午前六時ニ西方ニアリ下弦ノ月ハ夜半東方ニ午前六時南方ニアリ新月ハ午後六時僅カニ西方ニ現ハレ午前六時再ヒ東方ニ出ツルカ如シ

第百九十五 其地方ニ於テ概ネ常ニ吹ケル風ヲ知レハ樹枝ノ向キ又ハ木ノ皮ノ色ニテ方位ヲ知ルヲ得ヘク又木ノ幹及岩石ノ面ニ縁苔ノ蒸セシ方ハ北ニシテ木ノ切目ニテハ木理ノ輪ノ大ナル方ハ南ニ小ナル方ハ北ナルヲ知ルヘシ

第百九十六 夜間方位ヲ知ルニハ先ツ北極星ノ位置ヲ



見ルヘシ之ヲ見ルニハ北ノ方ニ當リテ大熊星トテ前圖  
 ノ如ク七ツノ星ヲ線ニテ結ヒ付ケレハ杓子ノ形ヲ爲セ  
 ル者アリ此杓子ノ頭ト爲ルニツノ星ヲ後ノ方ニ引キ延  
 ハシタル處ニ光明カナル大トキ星アリ之ヲ北極星ト云  
 フ此北極星モ亦其上ノ方ニアル小サキ五ツノ星ヲ結ヒ  
 付クレハ少サキ杓子ノ形ヲ爲ス之ヲ小熊星ト云フ  
 北極星ヲ見出セハ之ニ向テ行ケハ北ナリ之ヲ左ニ取テ  
 行ケハ東ナリ之ヲ右ニ取テ行ケハ西ナリ背後ニシテ行  
 ケハ南ナリ

徴候

第百九十七

徴候トハ敵ノアルヤ否ヤヲ知ル諸種ノ景  
 况ヲ云フ

第百九十八

其蹴立テル土煙ノ况景ニテ何兵種ナルヲ  
 知ルヘシ即チ土煙ノ低クシテ濃キハ歩兵ナリ高ク切々  
 ニナリテ濃キハ砲兵高クシテ淡キハ騎兵ナリ

第百九十九

歩跡アルハ歩兵蹄跡アルハ騎兵車跡アル  
 ハ砲兵ノ通りシ徴ニシテ砲車ノ車輪ハ他ノ荷車ノ車跡  
 ヨリモ其幅廣シ

第百

人民ノ驕レルハ敵近キナリ人民ノ畏ルハ敵遠  
 キナリ

犬ノ遠吠スルハ敵ノ通りタルナリ

第一百一

露營火ノ衰フルハ敵兵去ルナリ其盛ナルハ敵ノ大數ヲ加フルナリ然レハ敵偽リテ此ノ如クスルコトアレハ之ニ注意スヘシ

第一百二

敵兵ノ撒去セル露營ノ跡ヲ觀レハ其兵數種類及軍紀ノ正否ヲ知ルヲ得ベシ

第一百三

野原ニテハ草ノ踏ミ倒シタル景況森林内ニテハ木ノ葉ノ踏ミ乱シタル等ニテ敵ノ通りタルヲ知ルヘシ

第一百四

敵河川ノ一部ニ船ヲ集メタルハ渡河ヲ計ル

徴ニシテ之レヲ燒棄シ或ハ橋梁ヲ破壊スル等ハ退却ノ徴ナリ

第一百五

其他徴候ハ其自然ニ發生スルモノト人爲ニ出ツルモノトヲ認識シ諸種ノ場合ニ應用セバ緊要ノ情報ヲ得ルモノトス

兵卒  
應用  
政正  
野外  
要務  
終





明治廿四年八月卅一日  
明治廿三年八月八日  
明治廿三年八月廿八日

印刷  
第十版  
印  
同月八日發行

編輯者

井上勝五郎

發行所

東京京橋區南紺屋町一番地  
常盤棟吉

印刷所

東京市京橋區大鋸町八番地  
績文舍

發行所

東京市京橋區弓町十三番地  
厚生堂  
全京橋區南傳馬町一丁目  
電話本局八三八番  
武揚堂  
全京橋區大鋸町八番地





陸軍各兵科教育教令	正稅價金二九錢	陸軍各兵科教育教令	正稅價金二九錢
赤十字條約註釋	正稅價金二錢	赤十字條約註釋	正稅價金二錢
擔架術教科書	正稅價金二錢	擔架術教科書	正稅價金二錢
救急法及衛生法大意	正稅價金二錢	救急法及衛生法大意	正稅價金二錢
陸海軍喇叭譜	正稅價金二錢	陸海軍喇叭譜	正稅價金二錢
陸海軍法規全書	正稅價金五錢	陸海軍法規全書	正稅價金五錢
陸軍給與令	正稅價金六錢	陸軍給與令	正稅價金六錢
陸軍衛生學	正稅價金七錢	陸軍衛生學	正稅價金七錢
軍人衛生講	正稅價金二錢	軍人衛生講	正稅價金二錢
算數學講	正稅價金二錢	算數學講	正稅價金二錢
全圖學講	正稅價金二錢	全圖學講	正稅價金二錢
測學講	正稅價金二錢	測學講	正稅價金二錢
生徒起居之注意	正稅價金二錢	生徒起居之注意	正稅價金二錢
陸軍給與令	正稅價金六錢	陸軍給與令	正稅價金六錢
陸軍衛生學	正稅價金七錢	陸軍衛生學	正稅價金七錢
軍人衛生講	正稅價金二錢	軍人衛生講	正稅價金二錢
算數學講	正稅價金二錢	算數學講	正稅價金二錢
全圖學講	正稅價金二錢	全圖學講	正稅價金二錢
測學講	正稅價金二錢	測學講	正稅價金二錢
生徒起居之注意	正稅價金二錢	生徒起居之注意	正稅價金二錢
野戰砲兵卒教	正稅價金四錢	野戰砲兵卒教	正稅價金四錢
騎兵卒教	正稅價金四錢	騎兵卒教	正稅價金四錢
步兵卒教	正稅價金四錢	步兵卒教	正稅價金四錢
砲兵卒教	正稅價金四錢	砲兵卒教	正稅價金四錢
戰術	正稅價金四錢	戰術	正稅價金四錢
得話	正稅價金四錢	得話	正稅價金四錢
式術	正稅價金四錢	式術	正稅價金四錢
書式	正稅價金四錢	書式	正稅價金四錢
徑書	正稅價金四錢	徑書	正稅價金四錢
地卒學	正稅價金四錢	地卒學	正稅價金四錢
卒教	正稅價金四錢	卒教	正稅價金四錢
答科	正稅價金四錢	答科	正稅價金四錢
捷科	正稅價金四錢	捷科	正稅價金四錢
附召集、服役條例問答	正稅價金四錢	附召集、服役條例問答	正稅價金四錢
役者心算	正稅價金四錢	役者心算	正稅價金四錢
戰術	正稅價金四錢	戰術	正稅價金四錢
得話	正稅價金四錢	得話	正稅價金四錢
式術	正稅價金四錢	式術	正稅價金四錢
書式	正稅價金四錢	書式	正稅價金四錢
徑書	正稅價金四錢	徑書	正稅價金四錢
地卒學	正稅價金四錢	地卒學	正稅價金四錢
卒教	正稅價金四錢	卒教	正稅價金四錢
答科	正稅價金四錢	答科	正稅價金四錢
捷科	正稅價金四錢	捷科	正稅價金四錢

同續篇除隊の  
 兵士櫻  
 五色陸軍模  
 染分法格  
 兵忠の  
 盡忠の  
 砲兵教程 (印刷中)  
 右御注文の際郵便送りの分は正價  
 の外各郵送料申受候事

柵 正稅價金二十錢  
 花 正稅價金二十錢  
 樣 正稅價金二十錢  
 言 正稅價金二十錢  
 光 正稅價金二十錢

一名谷村計介傳



五色  
分  
陸軍摸樣續篇

近  
刻

○主人公は正篇則ち現役の巻での五人男

●種類は軍談交りの世話物

△骨子は軍人氣質

▲趣考は壯快な物

⑩人物は無論日本人

①世界は矢張日本

◎箸者はお馴染の神洲清士

●挿畫は有名な大家

△文体は雅俗折衷

●陸軍的豫備役生

活此小説の眼目で

○發行所は例の武揚堂

終

